

教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会

発行者 平 本 宰 己

編集 広 報 部

— も く じ —

◎巻頭言	1	◎コロナ禍の中で	
◎全国専門部活動報告	2	～学校や地区の取組と今後の対応～	5～9
◎活動をととして（報告）	3	◎特色ある学校	10
◎全国研究部長会	4	◎地区だより	11
		◎ひろば・編集後記	12

当たり前を見直す

巻 頭 言

栃木県連合教育会 会長 津野田 誠 一



令和2年の年開けと共に騒がれ始めた「新型コロナウイルス」。3月からの突然の休校では、年度末だったということもあり、現場の混乱は計り知れなかったものだと思います。そして6月から休校は解除になったものの、夏休み短縮の授業時間確保があり、さらには運動会や修学旅行などの行事の見直しなど、教育課程の再編成を余儀なくされました。めまぐるしい忙しさとは正にこのことです。働き方改革の言葉もどこにいったのでしょうか。

そのような中でも、学校は目の前の子供たちに教育活動を行っていかなければなりません。教頭先生方には今まで以上の負担がかかってきてはいますが、健康第一で何とか頑張って乗り切ってもらいたいと思います。

さて、教頭先生方への提言という原稿依頼で真っ先に浮かんだことは、毎年同じように行われている事業や業務の『見直し』ということです。コロナ禍の中で今さらという感じはありますが、学校の要となる教頭先生方が日々の事業や業務を、見直しを前提に検討していくことは、学校全体の活性化には必要なことです。

話は変わりますが、現場にいた頃、子供たち相手にちょっとした科学実験を披露し、それを基に生活を振り返ってもらう講話を行っていました。その中で卵をテーブルの上に立たせるという実験があります。「できるのかな？」との問いかけに、当然のように子供たちからは「立つはずない。」と即答。皆さんはどう思いますか。塩をひとつまみ置いたり、先をちょっと割ったりして立たせるとかは論外ですが、これは実際に立たせることが可能です（練習は必要ですが、ぜひ挑戦を）。ほとんどの人は立つはずがないと思い込んでいます。子供たちにはこの実験で「やる前に結論を決めつけないことが大切。」と伝えました。

学校の事業や業務も同じ事がいえると思います。ずっと何年も続いているのだから、これがベストだと当然のように考え、何の疑問も持たずにそのまま引き継いでしまいます。一種の思い込みです。

職員に改めて改善点を尋ねてもなかなか出てくるものではありません。一つの方法として、異動という機会を活用するという手があります。異動した際、いろいろな点に何らかの違和感を感じたことがある人は多いと思います。毎日の日課、行事の持ち方、校内の設備、児童生徒との接し方など、異動してきた人の感じたものを早い時期にうまく吸い上げるのです。

「毎日の学校の当たり前に行われていることをもう一度見直す。」子供たちや先生方のために改善の余地はたくさんあります。それこそが教頭先生の重要な学校経営参画だと思います。

全国専門部活動報告

全国公立学校教頭会総務・調査部活動報告

全国公立学校教頭会総務・調査部員 宇都宮市立平石中央小学校 津久井 文

全国公立学校教頭会総務・調査部は、①職能研修団体として副校長・教頭の社会的地位の向上、学校現場における教育活動の充実と教員および副校長・教頭の働き方改革に向けた要請活動の充実を図る、②全国小中学校の副校長・教頭による調査に基づき、教育現場の現状や実態を的確に把握する調査を実施した後、資料を作成し、政策提言能力を高め、要請活動に活かす、という基本方針のもと、副校長・教頭の職場の現状及び教育現場に関する調査結果をもとに、国会議員や文部科学省等へ要請活動を行っています。また、例年は全国公立学校教頭会研究大会における分科会の運営等及び次年度大会の企画を担当しているようですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月に開催予定であった岡山大会が中止となったことから活動することができませんでした。

今年度の総務・調査部は東京・千葉・埼玉・茨城・群馬・山梨・静岡・栃木の小中学校の副校長・教頭8名で活動していますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一度も集まって部会を開催したことはなく、毎回ZOOMを用いたリモート会議を行っています。「はじめまして。」が画面越しというのは今年度ならではの、「新しい生活様式」が学校現場にも着実に根付いてきている証だと感じます。リモート会議当初はZOOMの操作にも不慣れで、全員がスムーズに会議に参加することができないこともありましたが、これまで東京に出張していたことを考えると、校内の会議室や職員室の自席からすぐに参加できるのは、忙しい学校現場にとっては非常に便利で、今後の会議の在り方を考えさせられる機会となりました。

現在は、夏に全国の副校長・教頭に回答していただいた「副校長・教頭の職場の現状及び教育現場に関する調査」について、結果を集計するとともに、分析・考察作業を行っています。今後、すべての分析・集計作業を終えたのち、令和3年2月初旬に、令和2年度「全国公立学校教頭会の調査」冊子を刊行する予定です。

令和2年度 全国専門部活動報告

全国公立学校教頭会研究部員 宇都宮市立豊郷南小学校 加藤 雅 継

研究部は、「全国統一研究主題」に即した「実践的な研究推進」を通して、学校運営に寄与する提言等を広めていく役割を担っております。具体的には、学校現場における様々な教育課題を6つの研究課題として整理し、継続的に成果と課題をまとめ、研究発表会等を通して内容を推進・充実・深化させていくことが求められています。

本来であれば、関東ブロック等の単位で定期的に集まりを持ち、全国研究大会・研究部長会・中央研修大会等の研究課題や研修内容について協議をする予定でしたが、他県への移動等に制限がかかる現状の中で、自分たちにできることは何か、模索しているところです。

今年度、全国大会が岡山県で行われる予定でした。大会自体は中止となりましたが、実行委員会からは、行う予定であったシンポジウムをオンラインで行う案が出て、実現されました。今話題の「ZOOM」を使用し、岡山大会のテーマ「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の下、コーディネーターとパネリストの方々が、家庭や職場から、それぞれの教育への思いを発言し合うもの（写真）で、予定されていた1時間30分があっという間に過ぎてしまう、充実した内容でした。新しい研究大会の在り方の一例となるものと考えています。

今後の活動については、管理職の万が一の感染は社会的にも影響が大きいことに配慮し、参集型の会議は行わず、書面あるいはリモートでの会議を行い、その中で研究を推進していくことが検討されています。

研究部の活動等に関しまして、新しい情報等が入り次第、何かの形でお伝えできるようにして参ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



岡山大会オンラインシンポジウム

活動をとおして（報告）

関ブロ群馬大会が中止となり、今考えること

関ブロ群馬大会提言者 那須塩原市立稲村小学校 小 田 昌 宏

今年度、関ブロ群馬大会で発表させていただく予定だった「安心・安全な学校づくりを目指して一児童生徒が自らの命を守る安全教育のための体制づくり」は、那須地区教頭会黒磯地区の研究委員の皆様が平成29年度から令和元年度までの3年間をかけて行った研究である。私は、3年次の研究に携わらせていただき、今年度、群馬大会での発表という大役を仰せつかることとなった。

ところが、現在もなお世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症のため様々なイベントや大会が次々と中止となる昨今の社会情勢の中、ご多分に漏れず関ブロ群馬大会も中止となってしまった。やむを得ないこととはいえ、多くの先生方が携わってきた研究発表の場が失われてしまったことは、大変残念である。ただ、この研究が紙面発表という形で公開されるのは救いである。是非多くの先生方に御覧いただければと思う。

さて、ここからは私事になってしまうことをお許しいただきたい。私はこの研究に携わらせていただいたことで多くのことを学ぶことができた。紙面の関係でここでは数多くの学びの中から2つだけを紹介させていただく。1つ目は、研究課題である「教育行財政」に教頭としてどのように関わっていくべきかに関する学びである。新任教頭である私は、研究を通して触れることができた諸先輩方の実践やアイデアを今後の業務にいかしていきたいと考えている。2つ目は、紙面発表に向けて群馬県義務教育課補佐・教科指導課長である大竹康史先生と、富岡市立西中学校の藤井清一校長先生に御助言を頂けたことである。お二人の御助言は、私がもっていなかった視点からのものばかりであり、まさに「目から鱗」の学びであった。

私は今、このような学びの機会を与えていただいたことに、大変感謝している。

栃管協での取組について（報告）

県教頭会要請部長 那須塩原市立東原小学校 鍋 谷 政 善

今年度、要請部長となり、栃木県学校管理職員協議会では副会長として、また、要請副部長の田崎恭男先生も、事務局次長としての立場で務めさせていただいております。今回、教頭先生方の声や、学校現場の実状を伝える機会をいただきました。以下が、活動報告となります。内容の詳細は、「栃管協会報」で御確認ください。

【活動報告】

◇令和3年度県教育予算要望活動

9月1日(火) 県議会 相馬 憲一 議長

9月17日(木) 県教委 荒川 政利 教育長

◇対県協議（交渉）

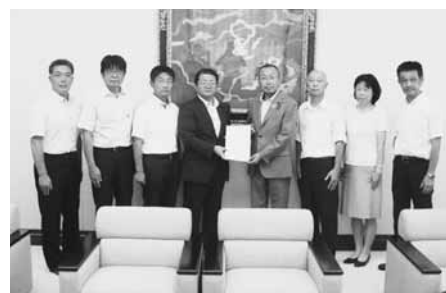
6月19日(金) 第1回対県正式協議（交渉）

11月9日(月) 第2回対県正式協議（交渉）

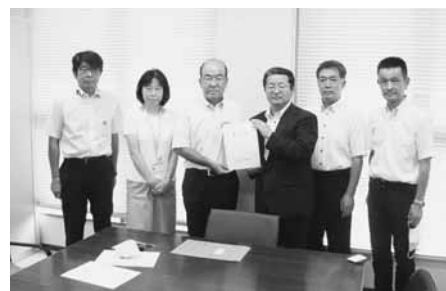
参加した場で共通していたことは、「コロナ禍における先生方の現場での取組への感謝の言葉」でした。

また、一つ一つの要望内容について、真摯に受け止めていただき、県としてもできる限りの取組をするとともに、併せて、国への要望活動もしてくださるとの言葉があったことを御報告いたします。

また、教頭としての立場で、現場で「魅力ある授業づくり」や「教職員の不祥事根絶」等に向け、更なる取組の必要性を感じました。



教育予算要望
県議会 相馬憲一 議長へ



教育予算要望
県教委 荒川政利 教育長へ

全国研究部長会

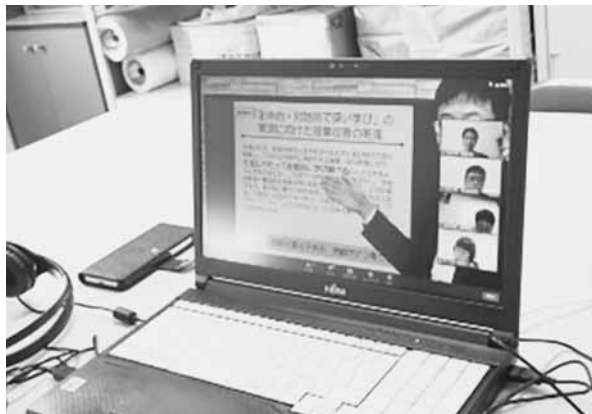
全国公立学校教頭会第1・2回研究部長会に参加して

県教頭会研究部長 宇都宮市立明保小学校 大木 和 明

令和2年12月3日に「全国公立学校教頭会第1・2回研究部長会」が開催されました。今年は、7月に予定されていた第1回全国研究部長会がコロナ禍の影響で中止となり、第2回と合わせてリモート会議での開催となりました。

全公教研究部のテーマを『新しい生活様式』に基づく学校教育の新たな取組と副校長・教頭の役割」とし、まず「学校の新しい生活様式とGIGAスクール構想」と題し、東京学芸大学教育学部准教授、高橋純先生からお話をいただきました。大学生になったような気持ちで先生のご講話を拝聴し、現在の状況および国の大きな動き等について、改めて確認することができました。次に、全公教研究部より第12期の研究テーマ「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」について説明があり、研究部からのアンケート報告「新しい生活様式に基づく学校の取組」と続けました。最後に、4～5名ごとの班をランダムに編成し、研究協議を実施しました。議題は「新しい生活様式の実践で、どのような取組を行ったか。また、どのような課題が生まれたか。」「今後、ICT機器の活用やオンライン授業等を通して、どのようなことができるか。」で、コロナ禍における各地区・各学校の取組について意見交換をしました。リモート会議実施前は、「ZOOMを使用したリモート会議で、どの位議論が深まるのか…。」などと思っていましたが、想像以上に有意義な意見交換をすることができました。

今回私は、ZOOMを使用したリモート会議を県教頭会事務局で実施しました。各学校でも環境は整いつつあるとは思いますが、事務局は機器も充実し、落ち着いて集中して研修を受講することができます。是非、ご利用いただければと思います。



令和2年度第1・2回全国研究部長会

1. 期日 令和2年12月3日(木) 13:30～16:30
2. 会場 各自のオンラインでの会議に参加可能な場所
*ZOOMを使用したリモート会議による開催
3. 出席者 各単位教頭会・副校長会研究部長50名
北海道ブロック6名東北ブロック6名
関東甲信越ブロック10名東海北陸ブロック6名
近畿ブロック6名中国ブロック4名
四国ブロック4名九州ブロック8名
全公教関係27名オブザーバー参加3名 合計80名
4. 内容
 - (1) 13:30 開会の言葉
 - (2) 13:35～14:25 講演
①講師紹介
②講師 東京学芸大学教育学部准教授 高橋 純 氏
演題 「学校の新しい生活様式とGIGAスクール構想」
 - (3) 14:25～30 会長挨拶
 - (4) 14:30～45 全公教研究部研究テーマについて
研究テーマ「第12期未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」
「『学校の新しい生活様式』に基づく学校の取組と副校長・教頭の役割」
 - (5) 14:45～15:00 休憩15分間
 - (6) 15:00～15:15 アンケート報告
研究部会アンケート報告「新しい生活様式に基づく学校の取組」
 - (7) 15:15～16:05 研究協議
①Zoomシステムを用いた今回の研究協議の概要・方法について
・今回の参加者をランダムに振り分け、4～5名の班を、14班編成します。
・今年度初めての会合です。短い時間ですが、自己紹介や学校自慢を通して、親交を深めてください。
・10分経ちましたら班の中で司会者を決定し協議に移るようお願いします。
・様々な情報を共有し、各地で広めていただく目的があります。
そのため、協議後にいくつかの班に発表していただく予定です。
・研究協議開始後、45分を過ぎると、自動的に画面は「全体」に切り替わります。
②研究協議
ア自己紹介・学校自慢10分
イ班別協議35分
(ア) 司会者の決定
(イ) 協議1アンケート報告を踏まえ、「新しい生活様式」の実践でどのような取り組みを行ったか。また、どのような課題が生まれたか。
協議2今後、ICT機器の活用やオンライン授業等を通してどのようなことができるのか。
 - (8) 16:05～16:25 全体発表と共有
1班あたり5分程の発表(協議1・2について2～3班程を予定)
 - (9) 16:25 閉会の言葉

コロナ禍の中で～学校や地区の取組と今後の対応～

コロナウイルス感染症対策として取り組んできたこと

宇都宮・上三川小地区副会長 宇都宮市立国本西小学校 吉 田 晋

本校は、宇都宮市の西部に位置し、学校周辺には田園地帯が広がり、西には多気山や鞍掛山などの山並みに囲まれた自然豊かな環境です。児童数は64名で、宇都宮市内で2番目に少ない学校です。小規模校ならではの取組もあるかと思しますので、参考にさせていただけると幸いです。

【ランチルーム給食】

本校は、給食をランチルームで全児童と一緒に食べています。例年は、対面で楽しく会話しながら給食を食べています。今年は、密を避けるため、4～6年生がランチルームで、1～3年生は各教室で一方向を向き、話をせずに食べています。食べ終わったら、すぐにマスクをしています。



【運動会】

運動会の参加者は、児童及びその家族、教職員とし、来賓、長寿者、地域の方々の参加をご遠慮いただく形で開催することとしました。また、児童の健康・安全を第一に考え、次のような項目を載せた通知を保護者に配付しました。

- ・来校時は、体調・体温をご確認の上、できる限りマスクの着用にご協力ください。
- ・会場に消毒液を設置いたしますので、ご利用ください。
- ・休憩時間にうがい・手洗いの時間をとりますので、保護者の皆様もできる限りご協力ください。
- ・児童が入場する際、間隔をとって整列しますので、応援は指定の場所をお願いいたします。

【修学旅行】

例年は、鎌倉・横浜方面に行っていましたが、今年度は保護者の意見も聞いた上で、行き先を宮城県の塩釜・松島・仙台方面に変更しました。また、新型コロナウイルス感染症対策については、学校としての対策、旅行会社としての対策、旅館としての対策を保護者に説明し、理解を得た上で実施しました。

新型コロナウイルス感染症対策としての取組

宇河中地区会長 宇都宮市立陽東中学校 鈴木 則 利

令和元年の年末から、にわかに騒がれ始めた新型コロナウイルス感染症は、あっという間に世界中を混乱の渦に巻き込んでいきました。そんな中、人類は新型コロナウイルス感染症に怯え、生活が一変する事態となりました。

学校現場も例外ではなく、令和2年3月からは休校となり、学校教育が一時ストップするという前代未聞の状況に追い込まれ、6月に学校が再開されるまでの間、試行錯誤を繰り返しながら様々な手を尽くして、子供たちの教育を受ける権利を守るために努力されてきたことと思います。

6月に学校が再開されてからは、国や県が示す衛生管理マニュアルやガイドラインに基づき、学校現場から感染者を出さないために、クラスターを発生させないために、多くの取組を行ってきたことと思います。

各市町によって感染状況が異なることから、対応には多少の違いはあったようですが、宇河地区内の小中学校では、各市町教育委員会が示した以下のような取組が進められました。

- 1 学校の日常における感染症対策
 - ・児童生徒、教職員等の健康観察の徹底や検温、体調を崩した者が出た際には、他者との接触を可能な限り避けるような配慮をする。
 - ・マスクの着用、こまめな手洗い、うがいの徹底や各教室の適切な換気、ソーシャルディスタンスの確保
 - ・教室やトイレ、水道、階段の手すり等の消毒液を用いての消毒
- 2 授業における感染症対策
 - ・3密（密閉・密集・密接）の回避
 - ・学校行事等の自粛や規模縮小等
- 3 感染症発生時の対応
 - ・対応フローの全教職員への周知徹底
 - ・偏見や差別のない環境づくり

新型コロナウイルス感染症対策の最前線で指揮を取られてきた教頭先生方には、頭の下がる思いでいっぱいですが、まだまだ終息するには時間が掛かりそうな状況です。「チーム学校」体制の更なる強化に向けて、皆さんで力を合わせ頑張っていきましょう。

コロナウイルス感染症対策

上都賀地区会長 日光市立落合東小学校 森 山 泉 恵

本地区は学校規模の差が大きく、感染症対策は学校により様々でした。そこで、地区教頭会としては、「可能な限り教頭は現場で」と考え、役員会を1度開催した後は、研修会等の実施を控えました。さて、感染症対策についてですが、自身の勤務校の取組に限られてしまっていますがご紹介させていただきます。

まず、臨時休業中は、週毎に安全確認と、学習課題の提示・確認を行いました。担任の負担を軽減するため、安全確認は、担任と専科の教員で児童を分担し、主に電話で確認しました。学習課題については、教科担当が課題内容を考え、学習指導主任を中心に一覧表にまとめ、メール送信で保護者に伝えました。課題を回収するときは、児童が持参したり、保護者に届けてもらったりしました。学習課題は、ちょうどeライブラリ（インターネットでの学習）を始めたところだったため、プリント学習と併用しました。学校が再開後も、週末はeライブラリを課題に出し、万が一臨時休業になったときに備えています。

学校が再開してからは、授業時数の確保に向けて行事や授業内容の精選を行いました。2ヶ月遅れのスタートであり、猶予なく取り組んでいかねばならないため、担任会や主任会などでこまめに確認・改善していきました。例えば、朝の流れ、授業開始終了のあいさつ、給食の準備・後片付けなど、今までは担任に任せるところが多かったものを全校でそろえました。そろえることで、まず目的を再確認し、無駄が省かれシンプルになりました。低中高学年の発達段階により多少は違っても大枠は変わらないため、学級担任以外の教員でも同じように指導ができ、組織的な経営に有効でした。

また、学力保障については、臨時休業中、「評価」について現職教育を実施し、再開後は授業研究を実施したり他学級の授業を参観し合ったりして、授業の質を高め合いました。今後も、時数不足を、授業の質の向上で補えるようにしていきたいと思っています。

コロナウイルス感染症により、どの学校でも「安全」と「学力保障」の両立にたいへん苦戦しておりますが、このような状況は、前例を見直す良い機会となりました。

コロナの収束を信じて

芳賀地区副会長 益子町立益子中学校 生 井 克 成

芳賀地区においても、感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減するために、子供たちと一体となって取り組むとともに、保護者や地域の方々の理解や協力を得ながら学校運営に努めています。その一端をご紹介します。

・健康観察の徹底

サーモグラフィーカメラを市町単位や学校単独で導入し、子供たちや教職員、来校者等の発熱状況を教師の目で確認するとともに、検温作業の効率化を図っています。

・学びの保障に向けて

臨時休業中は、市町や学校単位で遠隔授業等を実施しました。各学校の先生方は、授業内容の構成等に苦心しながらも教科や学年での話し合いを重ね、子供たちにとって分かりやすい動画の作成に努めました。また、飛沫防止のためのパーテーションを購入したり、地区内の工業高校の建設科からいただいたりして、授業でのグループ活動等が可能となっています。



・学校行事の工夫

各学校とも、子供たちの体験学習の確保に向けて知恵を出し合いながら、学校行事を実施しています。特に、卒業学年の子供たちにとって、少しでも良い思い出ができるよう、町教育委員会をはじめ関係機関等からの協力を得ながら取り組んでいます。

今後も、コロナの収束を信じて十分な感染症対策に努めていきます。しかしながら、感染リスクをゼロにすることはできないという事実を前提として、子供たちに感染が確認された場合には、決して差別・偏見・いじめ・誹謗中傷等が起こらぬよう、新型コロナウイルスに関する正しい知識及びその対応について指導にあたっていきます。

やってよかった運動会

下都賀地区副会長 小山市立大谷東小学校 高 橋 慎 一

本校は、例年、5月の下旬に運動会を実施していましたが、コロナウイルス感染拡大に伴い、9月26日(土)に実施することとしました。

本校は児童数約900名の大規模校なので、なんといっても、密集・密接を避ける対策が求められていました。そこで、2学年ずつ3部に分けての実施を考えました。実施する種目は、開閉会式、徒競走、表現運動、学級対抗リレーとしました。

また、校庭の密集を避けるため、参観できるのは、児童一人につき保護者2名までと制限しました。事前に、各家庭に、各部毎に色分けしたカードを配付し、氏名と当日の体温を記入していただきました。

そして当日。保護者の方々は、東京ディズニーランドのようにジグザグに区分けされた受付までの入場経路をマナーを守って進んでくださいました。午前中は、小雨の降る中での実施となりましたが、子供たちは頑張りました。教頭である私は、保護者対応や校内巡視で児童の演技をゆっくり見ることはできませんでしたが、特に、学級対抗リレーでは、マスク越しでも大きく響く子供たちの心からの歓声を久しぶりに聞くことができました。「やっぱり運動会はいいい！」と強く感じました。職員からは、「子供たちが全力で演技していた。」「開閉会式では、高学年としての自覚が見られた。」「他の学年の演技に声援を送る子供たちがたくさんいて感動した。」「雨が降ってきたので、子供たちに練習と違う動きが必要だったが、臨機応変に動いてくれてうれしかった。」等の声が聞かれました。



これまでと違い、多くの配慮が必要で、正直なところ大変でしたが、やってよかった運動会でした。今後も、子供たちの笑顔のため、取捨選択をしながらも、「どうすればできるのか」を考えて、様々な教育活動の実現に努めていきたいと思います。

運動会の実施と新型コロナウイルス感染症対策

塩谷地区副会長 さくら市立喜連川小学校 齋 藤 孝 之

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、運動会の開催については、本地区でも対応が分かれ、春を予定していた中学校は中止、秋を予定していた小学校は、様々な対策をしながら実施をしました。本校では、昨年度から午前中のみの実施としていましたが、本年度はさらに低・中・高学年ブロックの分散型・入れ替え方式の運動会としました。児童も保護者も入れ替え制です。児童は、個人種目や密にならないように工夫した団体種目、表現種目等ほぼいつもと変わらぬ種目数を45分間程度行い、終わると教室に戻り、他学年ブロックの競技や演技を教室のテレビでライブ中継を見ながら応援を行いました。ライブ中継も、ZOOMを使ったチャンネルと2階に設置したビデオからのチャンネル(予備)を準備しました。また、校庭は、児童の立ち位置として2mおきに目印を打ち、開閉会式もラジオ体操もその場所で行いました。熱中症対策のために児童用テントも設置しましたが、テントも密になりがちです。ブルーシートに約1.2m四方になるようにテープを貼り、柵席のように一人一人のスペースが確保できるよう工夫しました。さらに保護者には、入れ替え制や駐車場からのバス運行の通知を出し周知するとともに、校庭の出入り口3カ所に検温所を設置し、検温と検温したことを示す紙のリストバンドを渡すようにしました。児童用テントが減った分、広いスペースで参観することができ、保護者からも好評でした。新型コロナウイルス感染症対応のために、実施できない学校行事が多々あります。これからは、行事の必要性を考えた上で、どのようにすれば実施できるかを考え、コロナ禍を乗り越えていきたいです。



教室でLIVE観戦する1年生

学び続ける教職員

那須地区会長 大田原市立親園中学校 阿久津 克 哉

「ユーチューブで授業動画を配信しましょう」という校長の呼びかけに、本校職員は動画作りに挑戦し、3週間で生徒に150を超える動画を提供し、家庭で普段の授業内容を学べる環境を提供した。

4月の中旬より5月いっぱいの臨時休業に対し、それぞれの学校でこの期間に子供たちの学力をどう維持するかが課題であった。那須地区の市町の中には、全体でプリント作りを割り振り、効率的な取組を目指したところもあった。また、市町によっては、自校の児童生徒に合った学習を提供するため、各校での取組とするとところもあった。

本校では、4月より臨時休業（3月は、午前中授業を実施）となり、4月中には、プリント及び復習のためにワークブックを利用し、既習事項の定着を図った。しかし紙に向かい復習する学習では、生徒の学習意欲を削いでしまうと思われた。5月には予習的内容に切り替え学習を進めていく事を決めていた中、冒頭のように動画を提供することとなった。動画は主に2つのタイプが作られた。1つは、教員が黒板に向かい説明を行っているシーンを映し出している動画である。もう1つはプレゼンテーションソフトで制作した画像を動画に作り替えるタイプのものであった。また、この機会に復習用の一問一答の動画を作成し提供し300回を超え視聴されたコンテンツもあった。

動画を作成する過程の中で、1ギガを超える動画を作成してしまったり、ネット環境のない家庭向けにDVDを作成する際にコピー方法をよく理解していなかったために莫大な時間がかかってしまったりするなど多くの失敗を繰り返すなかで、職員は様々なノウハウを身に付けた。

次年度から実施されるGIGAスクールに向け、教員には双方向のICT利用スキルが必須とされる。今回の動画配信による授業の提供は、本校職員にとってICTに関する研修の機会となった。形の違ひこそあれ、本県の教職員がピンチをチャンスに変えスキルアップし、変化の激しい時代をたくましく生き抜く力を備えていると確信できる春でした。

新型コロナウイルス感染症への取組

南那須地区会長 那須烏山市立七合小学校 田 島 弘 行

本地区においても、文部科学省の『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』や栃木県教育委員会の『新型コロナウイルス感染症学校における対策マニュアル』を参考に各小中学校で感染症対策を実践している。

具体的には、学校における新型コロナウイルス感染症対策として、

- (1) 児童生徒等・教職員の健康観察の徹底（検温表の提出）
- (2) 日常の感染症対策の徹底（3密対策、感染源や感染経路を絶つ・抵抗力を高める）
- (3) 学校給食等の感染症対策の実施（三十二人学級は分散）
- (4) 新型コロナウイルス感染症が発生した場合などの対応（マニュアル掲示）
- (5) 新型コロナウイルスに関する正しい知識及び差別への指導

等を実践している。

さらに、家庭との連携として、休日等において不要不急の外出を控える、仲の良い友人同士の家庭間の行き来を控える、家族ぐるみの交流による接触を控えるなど、学校を通じた人間関係の中で感染が広がらないよう協力を依頼している。



スクール・サポート・スタッフによる消毒

こうしたことについて、保護者の理解と協力を得て、家庭においても「新しい生活様式」の実践を依頼し、また、PTA等と連携しつつ保護者の理解が得られるよう、学校からも積極的な情報発信を心がけるとともに、家庭の協力を呼びかけている。

また、スクール・サポート・スタッフが配置され、消毒や事務補助等、教員の負担軽減が図られ、教職員の働き方改革にもつながっている。

佐野市における取組

佐野地区会長 佐野市立出流原小学校 山 口 英 樹

6月からの学校再開に向けて、佐野市では子供たちの学びを保障するために、5月の連休明けから臨時登校日を段階的に増やしてきました。前学年で未履修だった内容の学習を行いました。6月からはすべての学校で、7時間授業の日を週2日から4日設けて、授業時数の確保に努めています。また、朝の学習をモジュールで時数にカウントしている学校もあります。夏季休業も8月1日から16日までと短縮されました。宿泊を伴う学校行事については、通常の学校生活に比べ感染リスクが高いことや宿泊先で児童生徒に感染者が確認された場合の対応が困難であることから、佐野市教育委員会から中止の決定が下されました。代替行事として、日帰りの修学旅行や校外学習を予定している学校もあります。

日常の感染症予防対策はどの地区でも同じようなことをやっていると思います。まず、児童生徒、教職員の健康観察の徹底です。朝の検温を確実に行うとともに、発熱等の症状がある場合は必ず登校を見合わせるようにしています。次に、手洗い、消毒、マスク着用の徹底です。特に消毒については、児童生徒が良く手を触れる場所や共用物は1日に1回以上、次亜塩素酸水などを使って消毒を行っています。3つ目として、3密を避けるための工夫です。教室内は定期的に換気を行っています。教室の座席配置についても、学級内で最大限の間隔をとるようにしています。さらに、教育活動に様々な制限を設けています。今年度は水泳の授業は中止となりました。家庭科、技術・家庭科における調理実習は年計の中で指導の順序を変え、実施を控えています。体育科、保健体育科における児童生徒が密集する運動などについても年計の中で指導の順序を変え、実施を控えています。(10月7日付スポーツ庁政策課学校体育室の文書で、制限が緩和されました。)給食では、準備前に健康観察を行い、体調が悪い児童生徒には給食当番の仕事をさせないようにしています。会食は前向きで行っています。

このような状態ははっきり言って異常です。一刻も早く、正常な状態で教育活動が行えることを切に願っています。

子供たちが安心して学べる環境を整えるために

足利地区会長 足利市立小俣小学校 浅 海 紀 幸

足利市においては、「新型コロナウイルス感染症に対応した学校生活ガイドライン」(足利市教育委員会作成)に基づき、各学校での具体的な取組を保護者の理解・協力を得ながら取り組んでいる。取組の一例として、【学校での生活】では、始業前、児童生徒の登校前に教室等の窓を開け、換気している。教室に入る前には、石けんと流水で30秒程度の手洗いを徹底させる。【家庭での生活】では、健康観察シート(検温記録表)を活用し登校前に家で検温をし、発熱や風邪の症状等がある場合は、登校せず自宅での休養(出席停止)をお願いしている。また、【その他】として、新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識や感染症対策について、発達段階に応じた指導を行い、適切な行動をとることができるようにする。そして新型コロナウイルス感染症を理由に、いじめや特定の地域・人に対する偏見や差別がないよう、十分な配慮に努めている。

本校において、集会は放送を利用することで、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面を避ける【3つの密】に十分配慮して実施している。

また、これら感染防止に関する取組の徹底をはかる中で、運動会、遠足・宿泊学習等の学校行事、部活動を可能な限り実施している。運動会では、種目を見直したり、実施方法を工夫したりして取り組んだ。

新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せない状況で、先生方は不安を抱えながらも日々子供たちの安心安全のために熱心に教育活動に取り組んでいる。先生方自身の健康管理及び予防対策にも細心の注意を払いながら学校環境の整備・保持に努めなければならない。



地域とつくる子供の学び

日光市立鬼怒川小学校 田 島 文 博

本校は日光市北東部に位置する児童数89名の小規模校です。学区には鬼怒川・川治温泉があり、全国から観光客が訪れる地域です。一昨年は、独立70周年を記念して、人文字で温泉マークを作り、ギネス世界記録に認定されました。

本校の特色の一つとしては、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた「地域と連携した子供の学びづくり」の取組があります。生活科の校外学習では、観光業の仕事や地元のよさを知ることを行ないとした体験学習を行っています。毎年、バームクーヘン店や土産物店の協力を得て、実際に接客を体験することで、課題を自分事として捉え、意欲的に学ぶ子供たちの姿が見られます。また、市内に世界遺産の日光の社寺がある環境を生かし、6年生が二社一寺見学の校外学習を実施しています。事前学習と当日のガイドに、地域のボランティアの協力を得ることで、子供たちの学びが深まり、歴史的探究学習への興味関心が高まりました。

「温泉教育」では、観光協会の方から「温泉の歴史」や「楽しく入浴するためのマナー」についての講話を聞いた後、本校に隣接する温泉施設で実際に入浴をします。裸のつきあいを通じて、よき人間関係をつくり、郷土の特色に誇りを持つ子供たちが育っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域と連携した教育活動を予定通り実施することができませんでした。今後も活動内容や実施方法の見直しが必要になると思われますが、教職員が「地域をよく知る」、「保護者・地域との信頼関係を築く」ための取組を不断に続けることで、地域の人たちとシームレスに連携しながら、子供たちのよりよい学びの機会を創造していきたいと考えています。



名草小学校 創立145周年 ～地域と共に～

足利市立名草小学校 吉 田 美紀子

本校は、足利市の最北部に位置する学校で児童数が53名の小規模校です。学区には名草川が流れ、名草巨石群をはじめとする観光名所や魚釣りやキャンプができるような山々に囲まれた自然豊かな地域です。10月1日には本校創立145周年となり歴史のある学校でもあります。校庭南西に2本、高さは地上15m。秋の黄金時は見事で、晴天に澄みわたるイチョウの鮮やかさは必見です。学校教育目標は「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を柱として、歴代受け継がれてきた「残す教育」（地域の良さを知り地域を愛する子供を育てる）と「出す教育」（地域を離れても堂々とやっていける子供を育てる）が現在も教育の指標となっています。

今年は創立145周年を記念して、今年度から始まるプログラミング教育に向けて名草地区教育基金管理委員会様より、学習用ロボットやタブレット、組み立て型ロボットを寄贈していただきました。地域の方々からのご理解とご協力のおかげで子供たちは学んでいます。そして児童全員でおそろいの記念Tシャツを作成し、航空記念写真撮影で着用しました。デザインを決める時には「記念Tシャツコンクール」を実施しデザインを決めました。創立記念運動会では名草保育所の皆さんを特別ゲストとして呼びました。



全校児童でハイチーズ！



学習用ロボットをつかって

このように地域の方々に温かく支えられ、つながりながら今年は145周年を迎えることが出来ました。今後もふれあいを深め、よき伝統を引き継いでいこうとする気持ちを子供たちと育み、地域と共に取り組んでいきたいです。

全国公立学校教頭会第12期統一研究の初年度を迎えて

宇都宮市・上三川町小学校副校長会長 齋藤 知 之

宇都宮市・上三川町小学校副校長会は、副校長・教頭78名（宇都宮市71名、上三川町7名）で組織されています。

本会では、会員が10班に分かれて全国公立学校教頭会第12期統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」に基づく、6つの研究課題（教育課程に関する課題、子供の発達に関する課題、教育環境整備に関する課題、組織・運営に関する課題、教職員の専門性に関する課題、副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題）のいずれかを担当して研究を行っています。

今年度は、第12期統一研究主題による研究の1年次ということで、上記研究主題及び研究課題を受けて今後3年間にわたって研究を進めるためのテーマを各班が設定し、研究のスタートをきるという大切な年でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、5月に予定していた第1回の全体研修会は中止せざるを得ず、7月に内容を精選して実施した第2回の全体研修会からやっと実際の研究を始められるという状況でした。その後は、例年にはない様々な制約や新たに担わなければならない校務がある中、各班とも研修の持ち方を工夫するなどして実践研究を進めてきました。研究の成果については、本会の研究集録にまとめるとともに、2つの班の研究については、県教頭会の紙面発表大会にて発表させていただきました。

ところで、「学校における組織マネジメントには『一般解（どの学校にも通用するもの）』はない。」と言われる。たとえそうだとすると、同じ副校長・教頭職同士が情報交換を行うことによって、「解」を導き出すための多くのヒントが得られるものだと考えます。特に学校（のみならず、全世界）を取り巻く環境がこれまでに大きく変化してしまった現在、それは一層重要になっているのではないのでしょうか。そのようなことから、副校長・教頭としての専門性を高め学校経営の充実につながる活動を、今後も、多くの会員のいる強みとそのネットワークを生かしながら進めていきたいと思いをします。

芳賀郡市小中学校教頭会の取組

芳賀郡市小中学校教頭会長 山 口 恵 子

芳賀郡市小中学校教頭会は、真岡市23校、益子町7校、茂木町5校、市貝町4校、芳賀町4校、会員数44名で組織されています。例年の事業は、総会、全体研修会、役員・理事・研究委員研修会、各種研究大会への参加が主なものです。

さて、本会では、第12期（令和2～4年度）の初年度として、「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を研究主題に「教育環境整備に関する課題」について研究に取り組みました。芳賀郡市内小中学校全ての学校を対象に、安全・安心な学校づくりのための各校の取組に関する実態調査アンケートを実施し、現状把握からスタートしました。実態調査から見てきた喫緊の課題である視点（自然災害、熱中症、新型コロナウイルス感染症など）を中心に、その主な取組と課題を整理しました。

次年度は、課題として上がった、教育環境整備や危機管理マニュアルの見直しを行うこと、組織としての共通理解・共通行動のとれる体制を整えること、児童生徒の自己防衛および危機意識を高める取組を行うことについて、教頭の果たす役割を模索していきたいと考えています。

コロナウイルスが収束し、本会の会員が一丸となって、これまでのような充実した研修が実現できることを願いつつ、地区だよりの報告といたします。





月いちの楽しみ

野木町立野木小学校 西村 百代

私の月いちの楽しみは、25年近く続いている友人との飲み会。友人達とたわいもないおしゃべりをするだけで、リフレッシュができて、次週から仕事を頑張るパワーが得られたのですが、コロナ禍で、その楽しみがなくなりました。

そんな自粛生活を続けているときに、退職された先輩からオカリナをやらなかと勧められました。少し興味があったので、お試しでやってみることにしました。初めは、指使いを覚え、簡単な楽譜を渡され、少しでも曲が演奏できるようになると嬉しくなりました。そして、成り行きでマイオカリナを購入してしまいました。自主練習のうちは、マイペースでできたので良かったのですが、グループでの練習が始まると、あまり練習できない私にとって楽しい時間ばかりではありません。指使いが覚えきれなくて、音を出さないでごまかしてしまう場面が多々あります。リコーダーの苦手な子供の気持ちを実感できました。それでも、オカリナの先生やグループのメンバーとの新しい出会いもあり、上手な方々の素敵な音色に囲まれ幸せなひとときを過ごすことができるので、声をかけてくださった先輩に感謝しています。

これからも月いちの飲み会の復活を願いながら、新しい楽しみをみつけてみようと思います。

イニエスタのプレーに思う

高根沢町立東小学校 郡 司 典 夫

東京オリンピックイヤーとなるはずだった2020年元旦、オリンピックメインスタジアム新国立競技場の超満員のスタンドにいた。

サッカー天皇杯決勝で、世界的スター選手であるイニエスタのプレーを観るために。観戦できる喜びは格別だった。また、会場の雰囲気や演出が高揚感をさらに高めてくれた。

試合中にプレーを間近に観ながら、彼の凄さは何なのかを探った。ボールを扱う技術はもちろん世界屈指であるが、プレーに決して派手さがあるわけではない。

かつてのチームメイトは彼の凄さについて、「常に試合の流れを読み、どんな味方ともうまく合わせられる。彼が入ることでみんなが気持ちよく、ストレスなくプレーできる。彼とプレーすると、自分がもっている以上の力が出せる。」と、語っている。機械に例えれば、メインの大きな歯車などではなく、それらが連動して円滑に動くために欠かせない潤滑油のような存在だといえる。プレーを目の当たりにして、その思いを強くした。

現在の自らの立場を省みて、自分は目立たなくてもまわりの人と絶妙な関係を築き、人の力を引き出すことのできる存在でありたいと、イニエスタのプレーを観て今さらながら思うのである。

身近に感じる気象・生態系の変化

佐野市立赤見中学校 小林 豊彦

我が家は、栃木県の南西部に位置し、群馬県との境の自然あふれる地域であり、春は新緑・秋は紅葉で季節の変化を感じることができる。そんな我が家で最近、異変を感じる出来事がある。

一つ目は、気象の変化である。温暖化は地球規模で起きているので、その影響であると思われるが、特に夏の気象で夕立がほとんど起きないのである。子供の頃は、毎日といっても良いほど午後は雷雲が発生し、夕方雷と共に大粒の雨が降り、気温を下げてくれていた。その夕立が、最近ほとんど起こらないのである。今年の夏も大変な暑さであったが、夕立が起こらず、そのまま熱帯夜を過ごすことが多かったように思う。その分、時としてゲリラ豪雨や大型台風で、災害を伴う大量の雨が集中して降るようになってしまった。

二つ目は、野生の動物の出現が以前より明らかに多くなっていることである。まず、猪が夜田畑を荒らすようになった。次に、鹿である。夜、車で家に帰るときなど、目がライトで光ってその存在を目にするようになった。最後に猿の群れの出現である。猿については昼間活動し、畑の野菜や果物など食い散らかしてしまう困った存在である。

このように、身近に感じる気象や生態系の変化が地球の深刻な状態を暗示しているかのようで、気になるのは私だけであろうか。

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大から、大きなインパクトを受けた一年でした。ただ、今振り返ると、悪いことばかりではありませんでした。業務の精選が進み、様々な制限下の行事も全員の知恵と工夫で、感動あふれる成果を残せることなど、一気に働き方改革、学校改革を進めることもできました。しかし、with コロナの時代はまだまだ続きます。これからも、新しい時代を創って行かなければなりません。今号は、常に学校のリーダーとして、その最前線に立ってきた皆様からご寄稿いただきました。皆様の今後の活動に参考となれば幸いです。末文ですが、今号発行に際し、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。(大川)